

平成 2 6 年度 宮崎県立都城農業高等学校 学校評価

段階評価	4 期待以上	3 ほぼ期待どおり	2 やや期待を下回る	1 改善を要する
------	--------	-----------	------------	----------

本校の使命 創立 9 9 年のよき伝統を受け継ぎ、校訓のもと、宮崎県における農業教育のリーディングスクールとして県民に信頼される学校づくりを推進する。そのため、高い専門性に立脚した特色ある教育活動を展開し、命・食・環境・福祉等の分野における問題解決能力を高め、持続可能な社会の形成と発展を担う人材を育成する。						
本校の目標 （学校経営ビジョン 本校が目指す学校像） 1. 高い専門性を追求できる学校 2. 自己実現を図ることができる学校 3. 望ましい高校生像を探求できる学校						
ビジョン実現のための重点目標 ① 進路決定 1 0 0 % ② 部活動、農業クラブ活動等の全国大会出場 ③ 地域への積極的貢献						
関係校務分掌	評価項目	評価の視点	内部評価		外部評価	
			評 定	説 明	評 定	説 明
教務・情報部	成績アップについて	①学力向上への取り組みはどうだったか。 ②クラス平均をアップすることはできたか。 ③欠点者への指導等・学力向上への取り組みはどうだったか。	3. 0	学年が上がるにつれて平均点が上昇する傾向にある。欠点保有者も少なくなる傾向にある。成績不振者の指導は実施できた。	3. 4	学年での平均点が上昇していることは日々の生徒、先生の指導の成果だろうと思った。
	出席状況について	①欠席・遅刻を減らす取組はどうだったか。	3. 0	安易に学校を休まないよう生徒・保護者に機会あるごとに話す必要がある。他の校務分掌との連携が必要である。	3. 2	家庭との協力によって減らす取組を期待しています。学校での指導以上に家庭での指導や取組が何か必要。保護者の中でも一部だろうけれど、子どもに無関心な所が心配ですね。
	学力向上への取組	①自宅学習の充実 ②自宅学習実態調査の取組み ③長期休業中の課題の配付及び課題テストの実施 ④定期テスト一週間前の部活動停止	3. 0	学期途中及び長期休業中には、自宅学習の習慣化を図るために可能な限り宿題を出している。定期テスト 1 週間前の	3. 2	1 時間 1 時間の授業を大切にしていきたい。 3 年生で良くなることは本人のやる気、目標をもつことができたからだと思います。早く目標を立てることができる取組を。
	教師の授業力アップへの取組	①研究授業週間の成果はどうだったか。 ②若手教員の授業力アップはどうだったか。	3. 0	取組を深めるところまではできなかった。	3. 6	研究授業を実施され、授業力向上に活用されている。詳しい情報がほしい。（どんなテーマで行ったのか等）
	学校説明会への取組	①本校生徒募集への取組についてどうだったか。 ②平成 2 7 年度志願状況について	3. 0	職員が協力して取り組むことができた。	4. 0	生徒募集の取組強化により、高い志願状況となっている。
	中学生体験入学への取組	①充実した体験入学になっていたか。 ②平成 2 7 年度志願状況について	3. 0	参加者の満足度は高かった。志願状況は良かった。	4. 0	生徒募集の取組強化により、高い志願状況となっている。

関係校務分掌	評価項目	評価の視点	内部評価		外部評価	
			評 定	説 明	評 定	説 明
生徒指導部	問題行動をらす取組	①問題行動を減らす取り組みはどうだったか。	3. 0	定例の集会の指導だけではなく、HR担任による日々の指導や家庭との連携を粘り強く継続する必要がある。	3. 4	家庭・地域及び関係機関と連携して取り組んでいきたい。 保護者との連携をお願いします。
	イエローカード（服装容儀違反カード）の取組	①イエローカードの効果が服装容儀の向上につながったか。	3. 0	多くの生徒には効果があったが、同じ生徒が繰り返しイエローカードによる指導を受けている。	3. 4	保護者との連携をお願いします。
	生徒会・各種委員会活動の活性化	①生徒会活動は充実した内容だったか。 ②各種委員会の活動は充実していたか。	3. 0	月1回の各種委員会を開催している。自主的・意欲的な活動につながっている。	3. 8	年々、活動の活発化が図られている。 諸活動に自主的な活動がみられて嬉しい。 子どもの意見はよく聞いて欲しい。 目線を変えることでよいアイデアが出ると思います。
	自転車事故を減らす取組について	①自転車事故を減らす取り組みはどうだったか。	3. 0	交差点や校門付近での「朝のあいさつ・交通安全指導」の実施で苦情が減った。	3. 4	安全運転講習会の実施など、事故減少への取組がみられる。 「朝のあいさつ、交通指導」の実施が良かったのだろうと思う。大変でしょうけど、続けてください。
	部活動への取組	①部活動の活性化、成績はどうだったか。	3. 0	特別な取組は実施していない。	3. 4	特になし
	携帯電話・スマートフォンへの対応策	①携帯電話による誹謗中傷（いじめ）防止への取り組みはどうだったか。	3. 0	携帯電話・スマートフォンが関係するいじめや問題行動は発生していない。	3. 2	少しずつでもいじめがなくなっている事を聞いて良かったです。進路決定100%につながるような早くからの指導はよかった。
進路指導部	進路決定100%を目指して	①生徒全員の進路を決定できたか。 ②担任との二者面談・三者面談 ③1学期、三学期の企業訪問	4. 0	進路決定100%を達成するとともに、公務員11名、国公立大学5名合格等、質の高い内容となった。	4. 0	進路決定100%を実現。 すばらしい実績を今後も続けていってください。 各種共進会での参加のみならず、チャンピオンはすばらしいです。 本業で和牛を育ててますが、むずかしいと思いますので、これからも参加をお願いします。
	キャリア教育への取組み	①進路ガイダンスの取組み ②職業進路ガイダンス ③進路講話、進路講演会 ④就職ガイダンス ※堅実な人生設計を描くことができたか	4. 0	進路ガイダンスを実施したことで、1・2年生については将来の進路希望を決めることができた。「その他」としている生徒は1%程度である。	3. 6	先生方の取組に感謝。
	上級学校受験者の合格率をあげる取組	①論文指導 ②口頭試問への対応 ③指導体制の確立 ④夏季休業中の進学課外	4. 0	上級学校進学に向けた課外は例年よりも1か月以上早めに実施した。教科・学科の協力体制もよく、出席率も良かった。	3. 8	課外授業を強化し、合格率を向上。 先生方の取組に感謝。
	公務員合格率アップへの取組み	①公務員課外 専門学校講師による課外	4. 0	公務員課外は2年生から開始し、生徒の出席もよく、成果があがっている。	4. 0	課外授業を強化し、合格率を向上。 先生方の取組に感謝。

関係校務分掌	評価項目	評価の視点	内部評価		外部評価	
			評 定	説 明	評 定	説 明
農 務 部	農業自営者育成への取組	①認定農業者研修会 ②緑の学園への参加 ④自営者の出前研修 ⑤ＳＡＰ大会への参加 ⑥視察研修 ⑦自営者を囲む会 等	３．０	農業自営者となる意識を高めるために、県農政水産部が企画する生徒向けの研修会やＳＡＰ大会等への参加の他、学校で企画している視察研修や農業を経営しているＯＢを招いての講演会等を実施し、成果をあげられた。	３．８	農務部の取組、素晴らしいと思う。
	学科の特色化への取組	①アグリフェスティバルの取組み ②農業自営者育成への取組 ③各種共進会への参加 ④六次産業化への取組 ⑤小学校との豆腐づくり交流 ⑥国土交通省・九州農政局出 前講座	３．０	学校外において、学習の成果を活かした取組を実施することで、より学科の特色化を図ることができた。特に食品科学科で１７年継続している食育や県教育委員会施策を活用したライフデザイン科の商品開発は、目立たないが地域との連携がとれた取組となっている。	４．０	各種共進会へ出品し、入賞するなど、特色ある取組が行われている。都城市の六次産業推進の中心校として今後の取組を楽しみにしている。
	中学生体験入学への取組	農業高校への興味・関心を高める体験入学になっているか。	３．０	約５７０名が参加したが、そのうちの約８５％が役に立つ体験入学であったと回答している。	３．６	特になし
	農業クラブ活動への取組	①本年度の農業クラブ関係大会での成績 ②意見発表・プロジェクト発表・農業鑑定競技への取組	３．０	プロジェクト発表は、区分「食料・生産」が九連大会出場、意見発表は区分「食料・生産」及び「文化・生活」が九連大会出場した。	４．０	活発な活動が行われ、九州大会等へも多数出場している。
	インターンシップへの取組	①学科の特色を生かした職場体験学習・実習 ②社会人としての心構えの醸成	３．０	５学科中４学科は夏季休業中に、１学科は１１月にインターンシップを実施した。	３．８	夏休み等を活用し、インターンシップの充実が図られている。今後とも大事にしていってほしい。
	資格取得向上を目指して	①学科の特色を活かした資格取得の推進 ②合格率アップへの取組み	３．０	日本農業技術検定３級の試験に、農業土木科以外の４学科の２年生１５５名が受検、１１４名が合格している。その他、農業土木科では測量士補に３年生２１名、２年生１４名が合格した。	３．６	特になし
	指導者の専門力向上への取組	①農業研究部会への参加 ②ＳＡＰ大会への参加 ③各種共進会への参加	３．０	肉用牛の共進会や乳用牛の共進会（Ｂ＆Ｗショウ）では県や九州規模の大会で入賞する等、指導者の専門力の高さを証明することができた。また、各研究部会へ参加することで技術力を向上させることができた。	４．０	先生方はもちろんですが、生徒さんの努力を今後とも大いに期待しています。